

## 第 27 回生活科学系コンソーシアム会議議事録

日時:平成 31 年 3 月 19 日(火)11:00~12:00

場所:共立女子大学 2 号館 605 教室

出席者:(敬省略)

生活科学系コンソーシアム構成学会より	計 11 名
国際服飾学会	増田美子
日本衣服学会	阿部栄子
一般社団法人 日本家政学会	綾部園子
日本消費者教育学会	柿野成美
日本食生活学会	佐々木弘子
一般社団法人 日本調理科学会	三宅裕子
服飾文化学会	大網美代子
一般社団法人 日本繊維製品消費科学会	阿部栄子(代理)
一般社団法人 日本保育学会	波多野名奈
公益社団法人 日本食品科学工学会	飯島陽子
一般社団法人 日本健康心理学会	岸太一
日本健康科学学会	中村順子

日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員 計 7 名

小川宣子、塚原典子、多屋淑子、重川純子、宮野道雄、鈴木恵美子、守隨香

欠席者:構成学会

公益社団法人日本栄養・食糧学会、日本家庭科教育学会、公益社団法人日本食品衛生学会、生活経済学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、日本健康医学会

欠席者:日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員 計 9 名

香西みどり、薩本弥生、都築和代、工藤由貴子、藤原葉子、倉持清美、永富良一、熊谷日登美、片山倫子

配布資料

資料1. 出席名簿

資料2. 生活科学系コンソーシアム第 26 回会議 議事録(案)

資料3. 平成 30 年度活動報告(案)

資料4. 平成 30 年度決算報告案(会計報告)

資料5. 2019 年度活動計画(案)

資料6. 運営委員一覧

資料7. 2019 年度会計予算(案)

資料8. 2019 年度構成学会行事予定表

資料9. 構成学会の会長及び連絡係の氏名および連絡先一覧

資料 10. 平成 30 年度 生活科学系コンソーシアム構成学会 会費口数

## 議題

- (1) 生活科学系コンソーシアム第 26 回会議議事録(案)の承認(守随委員)資料 2  
誤記の訂正し、承認された。
- (2) 平成 30 年度活動報告および決算案 (塚原副会長、鈴木委員)資料 3  
資料をもとに説明がなされた。いただいた意見を踏まえ、総会時には修正したものを提案する。
- (3) 2019 年度活動計画案および予算計画案 (塚原副会長、鈴木委員)資料 4  
資料をもとに説明がなされた。いただいた意見を踏まえ検討した上で、総会時には修正したものを提案する。

### (4) その他

マスタープランについて

(小川会長)

学術会議に健康・生活科学委員会として申請したことが報告された。採択結果の可否にかかわらず、家政学分科会としては「人間中心の社会」実現に向けて、生活科学系コンソーシアムとともに活動を行っていきたい旨が説明された。マスタープランの作成を進める上で、構成学会に蓄積されているデータを収集すべくアンケート調査を実施することが提案され、承認された。

## 報告

- (1) 第 24 期日本学術会議健康・生活委員会家政学分科会からの活動報告  
上記、議題(4)に兼ねた。
- (2) 第 10 回生活科学系博士課程論文発表会について (守随委員)  
同日午後で開催する博士課程論文発表会について、守随委員より会場、進行、懇親会の案内がなされた。今回は発表者の分野が多岐にわたることが従来にない特徴であることが述べられた。
- (3) その他
  - 1) 次年度事業計画案の検討依頼 (小川会長)  
シンポジウムの内容は 1) マスタープランの内容について、構成学会にアンケートを実施する(議題(4))。 2) 提言として家庭科教育の充実について表出したが、さらに具体的な授業内容に踏み込んで検討するために、構成学会にアンケートを実施する。以上 2 件のアンケ

ート結果を踏まえ、シンポジウムのテーマを決定することを検討中である。なお、シンポジウムは、上記2件のアンケート結果によって、家政学分科会または構成学会から選出する。

小川会長は、「分散しつつある家政学の構成分野の一致、統一をはかれるよう、シンポジウムの企画を検討していきたい」と述べた。

2) 構成学会 2019 年度行事予定表一覧提出依頼 (阿部委員) 資料 8

阿部委員より、行事予定表一覧は 6 月に締め切ること、フォーマットは後日送付すること、阿部委員にメールで送付してほしい旨が述べられた。構成学会の活発な動きを発信することが目的であるため、日程、内容ともに予定の告知でよいから知らせてほしいと呼びかけられた。

3) 構成学会会長及び連絡系の氏名および連絡先の確認 (阿部委員) 資料 9

阿部委員より表記の確認が求められ、修正が出た場合には阿部委員に連絡するよう依頼された。総会に提出したいため、変更は早めに知らせてほしいこと、フォーマットは HP に掲載する旨が伝えられた。

4) 2019 年度年会費の確認依頼 (鈴木委員) 資料 10

鈴木委員より資料が示され、各構成学会で年会費の口数増加を検討してもらいたい旨が依頼され、口数に増減がある場合は、総会前に鈴木委員に伝えてほしいと述べられた。

5) WG 報告:家政学分科会における提言発信に向けた WG の進捗状況が報告された。

・被服分野 WG

(多屋委員)

10 月 27 日に「衣生活を支える被服学における資格士教育の位置づけ」をテーマに、シンポジウムを開催し、当日の出席者から、被服学教育により認定される衣料管理士制度について、ご意見をいただいた。また、12 月 22 日の生活科学系コンソーシアム会議においては、被服学教育が衣料管理士養成に限定されるものではないというご意見をいただいた。これらも踏まえ、現在、提言作成を検討している。

・住居分野 WG

(宮野委員)

建築士の資格取得に関するアンケートを既に行い、資格教育が専門教育に与える影響について検討したいと考えている。建築士養成と本来あるべき住居学科の教育内容との関係について検討する。

・食分野 WG

(塚原副会長)

管理栄養士は食分野の教育における重要な資格である。今後も資格教育の内容を検討し、提言作成に繋げるとともに、コアカリキュラムの検討も行っていく方針である。

・生涯学習 WG

(重川委員)

心身また社会的に変化の大きいと考えられる 3 つの時期に絞り、検討を進めてきた。この間の環境等の変化を踏まえ、今後どのようにしていくかを検討している。

・科研費 WG

(鈴木委員)

引き続きキーワードの検討を行っていく方針である。

・保育分野 WG

(守随委員)

5月の日本保育学会大会において、食分野・被服分野・住居分野の登壇者を迎え、シンポジウムを行う。家政学からみた保育学の位置づけ、保育内容について俯瞰すると同時に、保育を中心に据え「家政学」を考える契機としたい。

次回会議日程:2019年5月14日(火)17:00~18:00

場所:日本学術会議